

教育的価値	具体の項目	教育課程
【そなえる】	⑮【東日本大震災津波の様子と被害の状況】 平成23年3月11日に発生した、東日本大震災津波の様子と被害の状況について理解する。	1・2年 生活科 3～6年 総合 1～6年 特別活動

【題材】

東日本大震災津波の様子と被害の状況や、復興の様子について知り、伝える。

- (1)「もぐらんぴあまちなか水族館」館長 宇部 修氏による講演会
- (2)三陸鉄道「震災学習列車体験」・被災地見学と体験内容の発信

【対象】 全校児童67名

【実践の概要・詳細】

(1)「もぐらんぴあまちなか水族館」館長 宇部修氏による講演会

7月23日(水)講師に久慈市「もぐらんぴあまちなか水族館」館長 宇部 修氏をお招きして『東日本大震災から生まれたまちなか水族館』と題して講演会を開催した。久慈市の津波被害の状況、復旧、復興に向けて取り組まれたご様子やご苦勞、「さかなクン」による応援等、お話頂いた。



「まちなか水族館」館長さんの講演

<児童の感想>

ぼくは、今日のお話を聞いて、久慈にも恐ろしい津波がきて、住んでいる人はもちろん、魚たちも被害にあったことがわかった。でも、まちなか水族館ができたりして、少しずつ復興が進んでいることをうれしく思った。また、お話を聞いて、津波が時速300km以上で襲ってきたことに驚いた。さらに何度も津波が来たことも驚いた。けれども、たくさんの人の協力のおかげで、まちなか水族館ができたことがすごいと思う。そして、たくさんの人たちが協力して復興が進んでいる姿が心に残った。

(2)三陸鉄道「震災学習列車」体験・被災地見学と体験内容の発信

9月25日(木)4、5、6年生が、7月に講演いただいた宇部館長さんの案内のもと、「もぐらんぴあ水族館」付近の見学を行うと共に、三陸鉄道社員二橋さんのガイドによる「震災学習列車」乗車体験、「もぐらんぴあまちなか水族館」見学を行った。



「震災学習列車」で黙とうを行う

また、この体験内容を、学習発表会において、代表の子どもたちが、1、2、3年生や保護者に向け、発表を行った。



体験内容を伝える

<児童の感想>

ぼくは、この体験をとおして津波のおそろしさを実感した。津波により、たくさんの命や物がうばわれた。そのことを学んだぼくができることは、学んだことを忘れないことと、他の人にも伝えることだ。「自分の命は自分で守る」「津波が来たら高い所に逃げる」「『つなみてんでんこ』とは、あらかじめ家族と逃げる場所を決めているからできること。ぼくも家族と話し合っていく」など、学んだことを忘れず、まわりの人に伝えることをがんばっていきたい。

<保護者の感想>

今年は、復興教育の発表もあり、子どもたちがこの体験をとおして感じたこと、考えたことがよく伝わり、良い経験ができたと感じた。

【まとめ】

「まちなか水族館」の宇部館長さん、三陸鉄道の二橋さんからお聞きした被災の様子やご苦勞、地域の方々の思いは、深く子どもたちの心に残った。また、体験したことや「これから自分にできること」を他の人に伝えることにより、自分自身を見つめることにつながった。現地での体験は、大変有意義な活動となった。

教育的価値	具体の項目	教育課程
【かかわる】	⑩【ボランティア】 他の人や地域社会に役立つことを自分から進んで実践し、他人の喜びを自分の喜びとして共感する。	1・2年 生活科 3～6年 総合 1～6年 特別活動

【題材】

復興のために自分たちが寄与・貢献できる内容を考え、行動する。

(1) ボランティア活動の積極的な推進

(2) 高学年の稲作による、米販売益金の「いわてまなび基金」への寄付

【対象】 全校児童 67名

【実践の概要・詳細】

(1) ボランティア活動の積極的な推進

本校では、例年 JRC 委員会が中心となり「気づき」「考え」「実行する」サイクルを大切にしながら、リサイクル活動、「気づきの木」による奉仕活動、募金などのボランティア活動を行っている。また、国定天然記念物



委員会によるボランティア活動の提案

「藤島のフジ」を守る活動として、周辺の落ち葉やごみ、枝拾いなどの清掃活動を行っている。復興教育をとおして学んだこと、考えたことから、「自分たちにできることはないか」と考えた子どもたちは、例年行ってきたボランティア活動をさらに積極的に取り組もうと考え、それぞれの活動に自主的に取り組んでいる。



「自分たちにできることは何か」を考え、ボランティア活動に積極的に取り組む子どもたち。「気づき」「考え」「実行する」サイクルを大切に実践している。



「藤島のフジ」を守る活動

「気づきの木」による奉仕活動の実践

(2) 高学年の稲作による、米販売益金の「いわてまなび基金」への寄付

本校では、今年も、各学年が地域の方々の協力を得ながら、農作物栽培に取り組んだ。その中で、例年、5、6年生は、育て収穫した米を保護者や地域の方々に購入していただき、得た益金を「いわてまなび基金」へ寄付している。今年度も、おいしいお米をたくさんとろうと、一生懸命に作業に取り組み、豊作の秋を迎えることができた。授業参観の際に、自分たちで精米した米を販売し、多くの方々に購入いただき、得た益金を「いわてまなび基金」へ寄付することとした。

<児童の感想>



稲刈り作業の様子



収穫したお米を販売 益金を寄付

【まとめ】

本校のこれまでの教育課程を、復興教育との関連から見直し、事前指導・実践・事後指導の中で3つの教育価値も含めた具体的な子どもたちの活動になるように、教職員が一体となって組織的に取り組むことができた。また、子どもたちもボランティア活動について、人の役に立つことの喜びを感じながら、自ら進んで実行しようとする態度や力が徐々に育ってきている。

今日は、米の販売をした。わたしは、特に宣伝活動に力を入れた。とれたお米80袋は、完売ではなかったけど、買っていくお客さんが笑顔で帰っていたのでうれしかった。帰ってからお米をたいて食べて、「おいしい」といってもらえればうれしい。米づくりはとても苦勞して、一粒一粒のお米ができることを実感した。わたしたちが行った米づくりが、他の人たちの役に立つことにつながればうれしい。